

卒業論文及び修士論文を書くにあたって

香川大学大学院 工学研究科 博士前期課程 信頼性情報システム工学専攻 修 士 論 文		
修了年度		令和元年度 (2019年度)
指導教員		香川 次郎
審査 担当 教員	主査	香川 次郎
	副査	高松 花子
		電子 正夫

香川大学大学院 工学研究科
博士前期課程 信頼性情報システム工学専攻

情報 太郎

令和2年2月8日

This is the English Title.

Abstract This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract.
This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the
abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract.
This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the
abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract.
This is the abstract. This is the abstract. This is the abstract.

[illegible]

キーワード keyword, keyword, keyword, keyword, keyword, keyword

目次

1 序論	1
2 論文を書く上での諸注意	4
2.1 さぶせくしょん	4
3 追加部分	5
3.1 卒論・修論についての注意事項	5
3.2 latex の導入	5
3.2.1 latex でのエラー	5
3.2.2 latex Workshop の使い方	5
3.2.3 VSCode の設定	6
3.3 参考文献について	6
3.4 研究活動に役立つツール	6
3.5 サンプル	7
3.5.1 画像	7
3.5.2 ソースコード	7
謝辞	9
参考文献	10
付録 A プログラムの全ソース	11
A.1 ファイル名	11
索引	12

第 1 章

序論

序論を書いてください。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3
4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6
7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2
3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3
4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6
7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2
3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3
4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6
7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2
3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

第 2 章

論文を書く上での諸注意

2.1 さぶせくしょん

卒業論文や修士論文を書くにあたって注意すべき点挙げます。

- 索引を必ずつけましょう。
- 先生方にみていただく前に，推敲しましょう。
- 参考文献の挙げる順序には，一貫性を持たせましょう。よくある例としては以下のようなものがあります。
 - － 論文中での出現順
 - － 参考文献の筆者の名前順
 - － 参考文献の出版年月順
- 参考文献の挙げたものは，本文中で言及しなければいけません。 [3]
- 参考文献の例 [4].

第 3 章

追加部分

3.1 卒論・修論についての注意事項

卒論・修論についての注意事項は、次のリンクも確認しておいてください。

<https://guppy.eng.kagawa-u.ac.jp/Seminar/Reference/sotsuron.html>

3.2 latex の導入

TEX Wiki 等を参考に Tex(Tex Live がおすすめ) をインストールしてください。

<https://texwiki.texjp.org/?TeX%E5%85%A5%E6%89%8B%E6%B3%95>

VSCode の拡張機能である LaTeX Workshop もインストールしてください。

TEX は容量も大きく、インストールに時間がかかります。ローカル環境に TEX をインストールしたくない場合は、香川研究室の hela に TEX がインストールされています。vscode の remote ssh などを使って執筆することができます。

3.2.1 latex でのエラー

エラーは /out/main.log に出力されます。

3.2.2 latex Workshop の使い方

VSCode 左側のリストから TEX のタブに移動して操作することができます。以下はよく使うショートカットキーです。

- 右側にプレビューを表示 Ctrl+Alt+V

- Tex から PDF の該当箇所を開く Ctrl+Alt+J
- PDF から TEX の該当箇所を開く Ctrl+左クリック

3.2.3 VSCode の設定

設定で format on save , auto save をオンにしています。不要な場合は消してください。また、build 時に不要な生成ファイルを削除するように設定しています。

3.3 参考文献について

参考文献は pbibtex を用います (大学配布のテンプレート同様に書いても問題ありません)。bib/references.bib に書くと、自動的に引用された文献のみが出力されます。エントリ種別やデータ項目は BibTeX の wikipedia[1] を参考にしてください。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/BibTeX>

参考文献におけるいろいろ

- 引用する際は、サイトごとに配布されるものを用いると便利です。例えば、google scholar[2] だと引用→bibtex にあります。
- web からの引用では google chrome の拡張機能の BibTeX entry from URL を用いると自動で生成してくれます。
- 論文管理ツールを使っていると、bibtex 形式で出力してくれます。

3.4 研究活動に役立つツール

- 論文検索ツール : google scholar
- その他論文検索ツール郡 : semantic scholar や elicit など人工知能を用いた論文検索
- CONNECTED PAPERS : 論文同士の関連を図として表示
- diagrams.net : フローチャートなどの作成
- DeepL : 翻訳ツール
- ChatGPT : 対話型の人工知能



図 3.1: サンプル画像

3.5 サンプル

3.5.1 画像

画像ファイル 3.1 です。

3.5.2 ソースコード

コード 3.1 はソースファイルを参照したもの、コード 3.2 は tex ファイル内に直接コードを書いたものです。書式設定は main.tex の `\lstset` で設定しています。自由に書き換えてください。コード内で日本語を使用する場合は `jlistins` を導入して、`\usepackage{listings}` から `\usepackage{listings,jlistings}` に変更してください。

Listing 3.1: sample1.c

```
1 #include<stdio.h>
2 int main(void) {
3     printf("Hello□World!\n");
4     return 0;
5 }
```

Listing 3.2: sample2.c

```
1 for(i = 0; i < 10; i++){
```

```
2 | //do somethings.  
3 | }
```

謝辞

謝辞はお世話になった人へ感謝の意を述べる大事な章です。先輩の論文のコピペではなく、論文作成に協力を頂いた方等への感謝の気持ちを、自分の言葉で簡潔にまとめて書きましょう。ただし、くだけ過ぎた文章は良くありません。論文にふさわしい文章となるように気をつけましょう。対象は、研究指導を担当してもらった先生（指導教員、主査、副査）、アドバイスを頂いたそれ以外の先生（研究会などで重要な意見をもらった他大学の先生含む）、研究協力をして頂いた人たち（先輩、後輩、同期等）です。

参考文献

- [1] Bibtex - wikipedia. <https://ja.wikipedia.org/wiki/BibTeX>. (閲覧日).
- [2] Google scholar. <https://scholar.google.co.jp/>. (閲覧日).
- [3] 著者. 本タイトル, 通巻. 出版社, 1111.
- [4] 著者. 論文タイトル. p. 2, 1111.

付録 A

プログラムの全ソース

A.1 ファイル名

% ソースの実体

索引

索引, 4